

審議案件①立地適正化計画の策定について 意見の内容と回答

	意見の内容	事務局の回答
津留委員	意見なし	
原口委員	意見なし	
松尾委員	意見なし	
谷口委員	意見なし	
堀之内委員	<p>資料 6、P23「浸水想定区域における防災対策の主な取り組み内容」のハード面の河川改修による治水対策内の記述を下記のとおり修正願いたい。</p> <p>修正前：那珂川の「床上浸水対策特別緊急事業」が実施されており</p> <p>修正後：那珂川の河川改修事業が実施されており</p> <p>(修正理由) 県において床上浸水対策特別緊急事業は既に事業を完了しており、現在通常の河川改修事業を進めているため。</p>	<p>ご指摘のとおり修正しました。</p>
松村委員	<p>那珂川市都市計画審議会設置条例（以下「設置条例」という。）第 6 条第 2 項「委員の過半数の出席がなければ、会議を開くことができない」とあります。今回の書面開催とした設置条例の根拠を教えてください。</p> <p>また、正式な都市計画審議会とした場合、審議案件は今後どのように議決を行うのか教えてください。</p>	<p>■書面開催の設置条例上の根拠について</p> <p>今回の審議案件は、今後の事業スケジュール上早急に審議を行う必要がありますが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための対策が求められている中、市内外からお集まりいただいた委員の皆さまが一堂に会する形式で審議会を開催することは適切ではないと考えられます。このような状況を鑑み、設置条例第 9 条「この条例に定めるもののほか必要な事項は、市長が別に定める」を根拠に、今回の審議会については、署名押印された意見書を持って各委員の出席と見なす旨定め、書面により開催させていただきました。</p> <p>■今後の流れについて</p> <p>本資料に同封して、答申（案）をお送りしております。答申（案）について意見がある場合は、6 月 19 日（金）までに事務局にご連絡ください。ご連絡がない場合は意見がないものとして取り扱います。</p> <p>意見がある場合は、意見の内容と事務局の回答及び修正した答申（案）をお送りします。意見がない場合には、答申を確定します。</p> <div style="text-align: center;"> <p><審議の流れ></p> <pre> graph TD A["5月11日(月) 事務局→委員 資料及び意見書様式の送付"] --> B["~5月29日(金) 委員→事務局 意見書の返送"] B --> C["6月12日(金) 事務局→委員 意見の内容及び答申(案)を送付"] C -- "意見がある場合" --> D["答申確定"] C -- "6月19日(金)までに意見がない場合" --> D </pre> </div>

	意見の内容	事務局の回答
包清委員	意見なし	
辰巳委員	意見なし	
山崎委員	意見なし	
真鍋委員	意見なし	
宮田委員	<p>基本的には、市の進める市のコンパクトな街づくり、という方針に全く異議はありません。</p> <p>将来の方針を立てるにあたって、その基礎となるのは将来の人口の推移ですが、依然として、将来人口が減少するという前提で良いのかという気持ちがあります。農業をどうするかということと関係しますが、スペース的にはまだ人口を吸収するだけの余地はあるように思います。そのための都市計画を考えていきたいのですが、一方で、市の財政状態が健全であれば、無理に人口を増やす必要があるとも言えませんし、その分土地の整理に集中して、住みやすい街にしていけることが良いのかもしれませんが、逆に、そうすることで人が集まってくることも考えられます。特に小規模公園の絶対的な不足は、若い世代の吸収には大きなネックです。</p> <p>公共交通機関の充実と言うまでもなく、市の発展の基本ですが、かわせみバスの運営については、市の財政上の大きな負担になっているので、早急に是正の方向で検討していただきたいと思います。西鉄バスの十分な運営網がある市北部（国道より北方面）での運行を西鉄バスの利用に代えて廃止。西鉄バス那珂川営業所と博多南駅等への直行便コースの設定などにより、より利便性の高い運営を行う、などの方策が一つのアイデアではないでしょうか。かわせみバスの最終便が早い時間に終わってしまうのも感心しません。</p>	<p>■将来の人口規模について</p> <p>本市の人口は現在も微増を続けており、今後も人口獲得に向けて施策を行っていく考えです。人口獲得の受け皿として、新市街地整備も進めています。</p> <p>しかし、「第2期那珂川市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」（資料6、P2参照）においては、本市の人口は令和12年に51,705人でピークを迎え、その後減少に転じるとされています。これは、新市街地整備を始めとする施策の効果による社会増を見込んだ予測であるため、将来の本市における人口減少の主な要因として考えられるのは、本市の競争力低下というよりも、全国的な人口減少の流れです。これらの予測から、本市における将来的な人口減少・高齢化は避けられないものと考えており、そのような厳しい状況にあっても市街地の人口密度を維持することで、住民サービスの維持向上を図っていくために本計画を策定するところです。</p> <p>また、既成市街地における小規模公園をはじめとする住環境の向上については、ご指摘のとおり子育て世代をはじめとする定住人口の維持増加につながると考えており、本計画においても「地区特性に応じた暮らしやすい環境の形成」を居住誘導の施策として掲げています（資料6、P34参照）。特に既成市街地内の公園については、既存の公園に防災や憩いの場の提供といった機能を付加・維持していくことで市街地の魅力向上につなげていく必要があると考えています。</p> <p>■公共交通機関の充実について</p> <p>市北部については、西鉄バス路線が国道385号・県道後野福岡線などの幹線道路沿いに限られており、その主たる運行目的は近隣自治体を目的地とした広域運行であることから、それ以外の地域についてかわせみバスを運行することで、市民の生活利便性確保に努めています。しかしながら、ご指摘のとおりかわせみバスの効率的な運行については課題と捉えており、とりわけ審議案件②の道善恵子地区における新市街地の取組みにおいては、公共交通と連携したまちづくりという視点で、西鉄バス那珂川営業所とJR博多南駅を結ぶルートや北部かわせみバスのハブ化など、交通結節点機能の強化について検討を行っていく考えです。</p>
熊谷委員	<p>拠点として①博多南駅周辺②道善交差点周辺は全く異議のないところである。違和感を覚えるのは③市役所周辺である。むしろ図書館、ホール、プール、フィットネスといった市民が良く利用するミリカローデン周辺のほうがコンパクトシティという観点からも拠点にふさわしいように思う。現在、病院も建設中である。</p> <p>ほどほどのにぎわい創出を考えれば、ミリカローデン周辺は今後市役所周辺以上に可能性を秘めた場所ではなかるうか。</p>	<p>■ミリカローデン那珂川周辺（仲・五郎丸地区）の位置づけについて</p> <p>本計画において、JR博多南駅・那珂川営業所・ミリカローデン那珂川の3つの施設を含む地域を「中心拠点」と位置づけ、商業、子育て機能、公共交通等の都市機能のさらなる充実により、利便性の高い居住環境を形成することとしています（資料6、P15）。その中で、ご指摘のミリカローデン那珂川周辺については、西鉄バス那珂川営業所周辺と同様に、集約型都市構造の実現に必要な都市機能の強化や居住の誘導を検討していく地域として「新市街地検討地域」に位置付けています。（資料6、P28）</p> <p>■市役所周辺（西隈地区）の位置づけについて</p> <p>本計画においては、市役所周辺を「行政・福祉拠点」と位置づけ、北部・南部の接続点に立地する本市の行政・福祉の拠点として、様々な行政・福祉サービスの強化を図ることとしており（資料6、P15）、「中心拠点」とは異なる役割を担う拠点であると考えています。</p>